

## 中国における CSR 状況——2015 年の動向

報告：金丹

はじめに

- ・ 2015 年の主な政策動向
- ・ 中国社会科学院の中国 Top300 社の CSR 研究報告書
- ・ CSR 報告書発行状況
- ・ CSR 関連の注目の話題

### 一 主な政策動向

- 2015 年 6 月 国家質量監督検査検疫総局、国家標準委員会が共同で社会的責任に関する中国国家基準シリーズを発表——『社会責任ガイド』（GB/T36000-2015）『社会責任報告書作成ガイド』（GB/T36001-2015）『社会責任パフォーマンス分類ガイド』（GB/T36002-2015）。2016 年 1 月 1 日から実施される。これらの基準は ISO26000 をモデルにして作成した中国国家基準であり、いずれも推奨レベルの基準となる。
- 2015 年 3 月 中央企業の十三次五カ年計画における社会的責任戦略研究プロジェクトが始動した。
- 2015 年 5 月 国務院は中国製造業の変換、戦略調整に関する『中国製造 2025』を発表した。製造業を中心とする中国企業の CSR 戦略に重要な影響を与えている。
- 2015 年 9 月 中国食品企業社会的責任評価基準が発表された。社会的責任に関する国家基準の発表後、それを参考にした業界基準である。
- そのほか—2015 年 4 月 広東省深圳市政府が CSR に関する深圳基準を発表した。

### 二 2015 年の中国 Top300 社の CSR 活動

——中国社会科学院企業社会責任研究センター等 2015 年中国 CSR 研究報告『企業社会的責任ブルーブック 2015』

- 2015 年 11 月 中国社会科学院企業社会責任研究センター等は 7 回目となる『中国企業社会的責任研究報告ブルーブック（2015）』を発表した。国有企業上位 100 社、民営企業上位 100 社、外資系企業上位 100 社の 2015 年 CSR 発展指数を発表した。
- 2015 年中国の Top300 社の CSR 発展指数は 34.4 で、去年より +1.5。全体的に依然ビギナー段階にある。7 年間で中国の CSR 発展指数は持続的に成長を見せてはいるが、成長幅は多少小さくなっている。
- 8 割以上の企業の得点は 60 以下で 3 つ星以下；5 割近い企業はまだ一つ星で傍観者の段階；7 社の得点は 0 で、CSR 関連情報の開示がない。

5つ星水準の企業は23社で7.7%、卓越者段階にある。2014年の14社から大幅増加。  
○外資系企業のCSR指数には大きな差が存在するが、東アジア地域（韓国、中国台湾、日本）の企業は比較的的良好。特に韓国系企業の得点は68.2で最も優れている。欧米地域（米英）の企業の得点は20以下である。日系企業の得点は35.8。

韓国 68.2 台湾 46.4 日本 35.8 ドイツ 27.3 フランス 23.1  
その他の国地域 19.3 米国 19.2 英国 17.0 シンガポール 12.3  
外資系 Top100 社の CSR 発展指数 26.1

- CSR 管理指数と責任実践指数は引き続き上昇しているが、管理指数が実践指数を上回っており、両者の差は拡大している。

CSR 管理 37.9

CSR 実践（市場責任、社会責任、環境責任）33.6

- CSR 関連情報開示においては国有企業と民間企業は財務系データを重視する反面、サプライチェーンに関する内容が不足している。外資系企業はコミュニティとサプライチェーン関連情報を重視し、法規適合と財務関連情報の開示は不十分である。
- 業界別の CSR 指数には大きな差があり、電力業界は4つ星水準に到達している反面、小売業界、インターネット金融業界は非常に低い水準にある。  
主な16の業界について分析しているが、トップが電力業界で71.1、四星；特殊設備製造業、石油・石油化学業、銀行業などが三星レベル。小売業 18.6、インターネット金融業 14.2 一つ星。

### 三 報告書の発行状況

- 2015年12月中国社会科学院『中国CSR報告白書2015』を発表した。
- 今回は1703部の報告書を収集し、公開されていないもの及び非企業系報告書を除いたCSR関連報告書1027部に対し分析を行った。
- 中国のCSR報告書類はCSR元年といわれる2006年の32社から1703社に増え、急速な増加を見せている。
- 企業の地域分布から見ると、中国大陸の企業が主体であり、北京、上海、広州の企業が4割近い割合を占めた。大陸以外の場合、中国香港、日韓企業が中国におけるCSRに関する報告書を中国で一番多く発行している
- 報告書の主体として国有企業が中心（600部）であり、上場企業が4分の3を占めている。
- 報告発表の連続性からみると、12社が10回連続発表；7回連続の企業が一番多く、192社に上り23.4%を占める。
- 頁数の面では50頁以上の報告書が26%を占めているが、CSR関連情報を全面的にカバーしている。しかし6割以上の報告書は30頁以下である。

- 報告書の作成において64%が関連基準を参照している。国内基準としては中国社会科学院社会責任研究センターのCSR報告書作成ガイドラインが一番多く参照されている。
- 報告書の内容面では全面的な披露から次第に実質的議題の披露への変換がみられる。

#### 四 CSR 関連注目の話題

○2015年7月 第7回中国CSR年会でKDデータ研究センターと『南方週末』、Jinan大学などが共同で<2014-2015年度中国CSR世論報告>を発表した。有名総合ウェブサイト、ニュースメディア、業界ウェブサイト、掲示板、ミニブログなどでデータ収集分析した。

○620件のCSR関連話題を取り上げているが、主に経済責任、コミュニティ参加、公益責任、情報開示責任などの内容に集中している。

○以下の特徴――

中央国有企業の腐敗防止問題－国有企業の役員が腐敗関連で調査を受けたり、処分を受ける事件が後を絶たない。鉄鋼業、石炭、電力、石油化学企業などが多く取り上げられ、社会の注目を集めた。

食品薬品安全、個人情報保護の問題－国内企業だけでなく世界的有名食品ブランドの不祥事も相次ぎ、消費者の信用を失った。大手ネット企業での顧客情報流出問題も。

経済構造変換に伴う労働者の権利保護問題－外資系企業の撤退、国内企業の規模縮小による大量リストラ問題や大規模ストなど。

環境法改正と環境責任の履行に伴う産業構造の変換

企業の公益責任への注目との従来方式からの脱却

CSR 情報公開

グローバル化、「インターネット+」アクション実施が中国企業にもたらす問題

#### 五 おわりに－今後注目すべき点

- ・十三次五カ年計画とCSR
- ・環境問題への対応
- ・社会的責任に関する国家基準シリーズの普及推進
- ・社会的責任に関する立法に関する動向
- ・中国企業の海外投資におけるCSR